

獨協医科大学病院だより

— Dokkyo Medical University Hospital News —

ご挨拶

病院長 麻生 好正
(内分泌代謝内科 診療部長)



皆さん、こんにちは。令和4年(2022年)4月1日より獨協医科大学病院の病院長を拝命しました麻生好正です。何卒宜しくお願い致します。

大学病院の副院長を5年間担当し、主に、感染制御センター長(院内感染対策)、病床管理センター長(ベッドコントロール)、大学病院経営情報分析室長の立場で役割を果たしてきました。これらの経験を活かして、病院長として、その責務を全うする覚悟です。

当大学病院は1,195床を有する特定機能病院です。特定機能病院とは高度な医療を提供する医療機関として厚生労働大臣に承認された病院です。これまでも、当院は高度医療の提供を維持し、高度急性期病院の役割を果たし、加えて新型コロナウイルス感染症の対応(特に、重症患者の治療)を含め地域医療にも貢献してまいりました。北関東最大のメディカルセンター、栃木県全域の基幹病院として三次救急医療、高度救急医療の提供に努めており、今後もドクターヘリ稼働数、救急車受け入れ台数を増加させ、引き続き、北関東の地域医療を支えていきます。また、総合周産期母子医療センターは小児・母子医療の拠点として、母体の救命救急への対応、ハイリスク妊娠に対する医療、高度な新生児医療等を担っています。がんゲノム医療についても「がんゲノム医療連携病院」の指定を受け積極的に取り組んでおります。

現在、33の診療科、24のセンターでの診療体制にありますが、今年度は、リプロダクションセンター(不妊治療)が新たに加わり更に診療体制は充実します。今後は、抗加齢・予防医療センター(仮称)の開設も検討しております。また、ハイブリッド手術室およびロボット支援手術室を増設し、手術数の増加により近隣の医療機関の負託に応じていきます。その他、HCU(高度治療室)8床の開設も計画しており、高度急性期・急性期医療提供体制を充実致します。

獨協医科大学病院は職員一丸となり、患者さんを中心とした、患者さんに寄り添う良質な医療を提供してまいります。すべての患者さん、ご家族に「獨協医科大学病院を選んでよかった」と思われる病院を目指します。

最後になりましたが、獨協医科大学病院の理念に基づき、粉骨砕身、大学病院の更なる発展のため努力する所存です。全職員を家族と思い、働きやすく、やりがいのある職場環境づくりに専心致します。皆様の温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。

令和4年(2022年)

春号



第49号

診療科紹介 精神神経科

獨協医科大学病院精神神経科は1974年4月1日に栃木県下都賀郡壬生町の地に産声を上げ、以来48年間、地域の精神医療に貢献できるように努力しております。診療面では、多様化している精神科医療に対するニーズに対応すべく、精神科疾患全般について診療を行っています。

「精神神経科」というと「あまり自分には関係ない診療科」と思われる方が多いかもしれません。しかし、国全体で見ると健康を増進するためには非常に力を入れなければいけない疾患と考えられています。①がん ②脳卒中 ③心筋梗塞

④糖尿病は患者数が多いことなどから、2007年から厚生労働省は、「4大疾病」として重点的な対策に取り組んできましたが、その後、精神疾患の患者が急増し、2008年に行った調査では、糖尿病の患者が237万人、がん患者が152万人だったのに対し精神疾患は323万人と、いずれをも上回っていました。さらに2008年には自殺者が3万2,000人を超え、精神疾患の治療の重要性がクローズアップされたわけです（ちなみに2020年1月からの約2年間でコロナウイルス感染症による死亡者数は約2万6,000人（2万6,161人、2022年3月13日現在））。このため、厚生労働省は、2013年から①がん ②脳卒中 ③心筋梗塞 ④糖尿病の「4大疾病」に「精神疾患」を加えて「5大疾病」として、重点的な対策を進めていくことを決めました。

外来の患者数は年間延べ約33,000人、その内、約1,200人が新来患者さんです。うつ病、神経症、統合失調症をはじめとする一般的な精神疾患から、睡眠障害にも対応しております。また、専門外来として認知症疾患医療センターの運営を脳神経内科とともに行っており、認知症の診断、治療を行っております。また、年に一度、認知症の診療・ケア・介護に関わるあらゆる職種（医師、看護師、薬剤師、ケースワーカー、ケアマネージャー等々）を対象に講演会を行っております。例えば、2021年度はダイヤモンド☆ユカイさんに「さあ困った！ 認知症と運転免許返納：私の体験」というタイトルのトークを行っていただきました。また、2019年には認知行動療法外来を、2021年には児童・思春期外来を新設いたしました。

入院加療に関して申し上げますと、病床数は36床で、年間入院患者数は約200人です。精神医学的診断には精神疾患の診断・統計マニュアル第5版（DSM-5）を用いており、週一度の診断・治療方針決定会議では、治療方針について徹底的に議論します。2016年4月より精神科リエゾンチームを発足し、身体科病棟への入院患者の精神症状に対して、主科と連携して診療にあたっています。2017年3月には日本総合病院精神医学会の修正型電気けいれん療法（m-ECT）研修施設第1号として認定され、年間約200件以上のm-ECTを麻酔科医の協力の下で行っています。先進的治療にも取り組んでおり、2021年4月からは反復性経頭蓋磁気刺激治療（repetitive Transcranial Magnetic Stimulation：rTMS）も開始しております。



診療部長
下田 和孝

認定看護師紹介

リエゾンチーム（認知症看護認定特定看護師）

6階北病棟 根本 亜紀



1. リエゾンチームとは

“リエゾン”とはフランス語で「連携・橋渡し・つなぐ」を意味する言葉です。精神科リエゾンチームはからだの病気で入院中の患者さんが何らかのこころの問題を抱えた場合に、こころとからだをつなぎ、担当各科の医師や看護師と「連携」しながら支援を行っています。当院の精神科リエゾンチームは2016年に設立されました。メンバーは精神科医、認知症認定看護師（認定心理師）、精神保健福祉士、公認心理士で構成されており、それぞれの専門性を活かしたチーム医療を行っています。

2. リエゾンチームにおける認知症看護認定特定看護師の役割

☆ リエゾンチーム看護師の取得

精神科病棟で3年以上経験後、認知症看護認定特定看護師、認定心理師として当院のリエゾンチームで活動しています。

☆ 患者さんの精神状態を評価

からだの調子が悪く治療のため入院している患者さんの中で、精神症状が安定しない、または精神疾患があり治療中の方が対象です。病棟の看護師より連絡、相談を受けてから病棟へ出向き、患者さんの精神状態を評価して精神科治療やケアの必要性を判断します。

☆ 患者さんのメンタルサポート

入院中は治療のストレスを受け、精神的に不安定になりやすい状態です。また、統合失調症などの精神疾患を持つ方はストレスに対応する力が弱く、環境の変化に適応できない傾向があります。精神科治療やケアの必要性がある患者さんへベッドサイドでお話を聴き、希望された時には個別にカウンセリングを行います。話を聴くだけでも「落ち着きました」と言ってくださる方も多いです。また、一般科看護師と一緒にケアを考えながら患者さんのメンタルサポートをしています。

☆ 患者さんのおくすりの相談

入院中に出現した、せん妄や抑うつ・不眠がある患者さんへ精神状態を評価した後、精神科医師と相談しながらおくすりの調整を行います。「精神科のおくすりは怖い。飲むとやめられなくなっちゃう…」といった患者さんの不安もあると思いますが、適切な使用をすることで入院生活が少しでも快適に過ごせるようなお手伝いをさせていただいています。

☆ 医療者に対する精神科コンサルトに関する指導・相談

スタッフのケアも環境の一部です。多くの患者さんは看護師のケアに癒されていると感謝を述べてくださることがほとんどです。看護師がリアリティオリエンテーションを行い「今、ここにある状況」をお伝えするだけでもせん妄の予防にもつながります。スタッフへ精神科対応に関する知識や技術の指導を行い、看護の質の向上に努めます。

3. リエゾンチームが今後目指すもの…

当院でリエゾンチームが活動する目的は、一般科による治療がスムーズに進むようサポートすることです。患者さんの心理・社会的な側面をサポートすることで安心して入院生活を送れ、治療が受けられるよう努めさせていただきます。また、一方で看護師の仕事はくすりの投与や高度な処置など、患者さんの命を預かる仕事が多く緊張を伴います。看護師もストレスを抱えることが少なくありません。今後は看護師のメンタルヘルスのサポートの役割を担うことも、看護の質が向上できる一歩だと考えています。タイムリーに院内で対応できるよう努めて参りたいと思います。

新型コロナウイルス感染防止のため

～ 3密回避ではなく 0密(ゼロミツ)必須へ～

気をつけよう感染を招く
集・近・閉



新型コロナウイルス感染予防のため

多くの人**集**まる場所
近くに寄って会話や会議
換気の悪い**閉**鎖した空間
を避けましょう

～病院へのお手紙に関するご回答～

給食に出されたバナナが黒ずんでいて、食感がガリっとして食べられるものではなかったです。バナナはむかないとわからないので、違うものを選ぶかバナナを使った料理にした方がいいと思います。

(回答)

ご意見ありがとうございます。食品に傷みがありましたことをお詫び申し上げます。ご指摘いただいた件につきましては担当者で共有し、納入業者にも報告させていただきます。検品にも十分気を付けておりますが、もしこのようなことがございましたら、別のものと交換もできますので、その場で病棟スタッフにお伝えください。

看護職募集

当院では、看護師 助産師を募集しております。就職説明会(WEB)、採用試験等については、ホームページ看護職募集サイトをご覧ください。

〒321-0293
栃木県下都賀郡壬生町大字北小林880
獨協医科大学病院 看護部
電話 0282-87-2395
E-mail kangobu-aaa@dokkyomed.ac.jp
(受付時間：月～金 9：00～17：00) *休日除く



獨協医科大学病院だより第49号

〒321-0293

栃木県下都賀郡壬生町大字北小林880番地

TEL 0282-86-1111 (代表) FAX 0282-86-4775

当広報誌は当院ホームページよりご覧いただけます。

<http://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/>

発行年月日 / 令和4年4月

発行・編集 / 獨協医科大学病院

印刷 / 株松井ピ・テ・オ・印刷